

(別添)

令和7年度サルボウ生息環境調査に係る底生生物同定および底質分析業務委託

仕様書

1 底生生物同定業務

- ・県が令和7年5月、8月、11月、令和8年2月に予定している標記調査で採取する9地点のマクロベントスについて、種の同定分類、個体数・重量測定を行う。
- ・同定検体数：36検体
- ・送付する検体：採泥後、目合い1mmのラッセル網で篩いグルタルアルデヒド（10%程度）で固定しているもの
- ・検体送付時期：検体採集後随時

2 底質分析業務

- ・県が令和7年5月、8月、11月、令和8年2月に予定している標記調査で採泥する11地点の底泥について、つぎの①～④の項目の分析を行う。

別紙「有明水産振興センター底質分析フロー図」参照

①AVS（硫化物）：ガス検知管法によりAVS分析を行う。

②COD（化学的酸素要求量）：アルカリ性法によりCOD分析を行う。

③粒度組成：110℃24時間乾燥により乾泥率を測定する。

篩分け法など粒度分布測定により粒度組成分析を行い、含泥率、Md ϕ （中央粒径値）を算出する。

④IL（強熱減量）：550℃で1時間強熱後測定、その後さらに550℃で5時間強熱後測定を行う。

・分析検体数：

分析項目	検体数					備考
	5月	8月	11月	2月	計	
①AVS	-	11	11	11	33	・5月の①AVSは 県（発注者）が分析
②COD	11	11	11	11	44	
③粒度組成	11	11	11	11	44	
④IL	11	11	11	11	44	

・送付する検体：採泥後、密閉容器に収容し冷凍保管しているもの

・検体送付時期：検体採集後随時

3 報告書作成業務

・県が指示する様式によりとりまとめ、令和8年3月23日（月）までに最終報告書を提出すること。最終報告書はA4サイズで1部とし、合わせて電子媒体により、WordあるいはExcel形式で提出すること。

4 その他

・調査の実施状況により分析検体数が変わる場合は、変更契約を行う。

・同定および分析回数は原則1回とする。

ただし③粒度組成 Md ϕ (中央粒径値)については、算出出来なかった場合直ちに発注者に報告。

再度分析を検討することとします。

・マクロベントスの重量は、小数点以下2桁の数値を求めるものとします。

・県では、①AVS（硫化物）は採泥冷凍後2週間以内の分析としています。

検体受け取り後、速やかな分析が必要となります。

佐賀県有明水産振興センター

底質分析フロー図

